



from Washington, D.C.



世界銀行ビルに掲示された大型垂れ幕

グローバルな街ワシントンD.C.

米国の首都ワシントンD.C. についてのイメージといえば、ホワイトハウスと議会に代表される「政治の町」という方が多いかと思いますが、国際通貨基金（IMF）と世界銀行グループ（注）の本部を有する国際都市としての一面も持っています。昨年、体制発足75周年を迎えた両機関の本部ビルは、ワシントンD.C. 北西部の19番街の両脇に建っています。

普段は物静かで落ち着いた雰囲気のある両ビルの近辺が、人でごった返し、にぎやかになる時期が、例年、4月と10月にあります。国際通貨基金および世界銀行のオーナー（出資国）である加盟各国を代表して、財務大臣や中央銀行総裁等が集ういわば「株主総会」が開催される時です。ちなみに、4月の会合は春季会合、10月の会合が年次総会と呼ばれています。

加盟189カ国の財務大臣と中央銀行総裁、その随行者、会合取材する各国メディア、会合とリンクして開催されるもろもろのイベントに参加する金融機関関係者等を合わせて1万人を超える人々がやって来

る4月と10月は、19番街の一角が文字通り人種のるつぼ状態となります。

こうした一大イベントの開催に向けて建物のデコレーションや会場設営等が、ごく短期間で行われることも大きな特徴です。金曜日までは何もなかったビルの壁に、月曜日に出勤してみると大型垂れ幕が掲示されているといった具合です。もちろん、その背後には、円滑な会合開催に向けた何カ月にも及ぶ入念な事前準備があるわけです。

毎年4月と10月という季節の変わり目にあたって、大型垂れ幕や各国からの多数かつ多様な会合参加者でにぎわう19番街を目にするたびに、ワシントンD.C. のグローバルな側面と米国が元来持っている包容力を感じます。

（国際通貨基金本部、ワシントンD.C.）

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。

（注）世界銀行グループ／貧困削減や開発支援を目的とした国際復興開発銀行や国際開発協会など5機関から構成される。1944年に設立が決定、翌年に正式発足。



19番街交差点（左のビルが世界銀行、右の手前の二つのビルが国際通貨基金）